

## 11. 300系統から319系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
300	新横浜駅前	横浜労災病院、新開橋、新栄高校南口	仲町台駅	港北		C	土曜、休日は頻度B
	新横浜駅前	鳥山大橋、新開橋、新栄高校南口	仲町台駅	港北		C ←	始発便及び深夜時間帯のみの運行
300系統解説	市営地下鉄新横浜～あざみ野開通以前は新横浜駅前～江田駅を結ぶ港北ニュータウン地区の大動脈路線でした。しかし、地下鉄あざみ野開業後はセンター南駅発着に変更されました。同時に運行本数も削減され、地下鉄では行きにくい横浜労災病院周辺の足となる路線になりました。かつての大動脈路線は大赤字路線に転落し、2006年1月30日に仲町台駅～センター南駅間が廃止となり、新横浜駅～港北インター～仲町台駅の運行となりました。その後も赤字が続き廃止対象路線となりましたが、補助金交付対象路線となりとらず横浜市営バスが継続して運行することになりました。						
301	江田駅	都築ふれあいの丘、向原	仲町台駅	港北	東急 (一部)	C	双方向深夜バス運行 土休日日中の運行頻度はB
301系統解説	301系統は地下鉄開業前は江田駅と市が尾駅を結ぶ路線でしたが、地下鉄あざみ野開業にあわせて元の300系統のうち江田駅～仲町台駅間をこの系統が名乗ることになりました。子系統として、荏田南、中の瀬経由でセンター南駅に行く系統がありましたが、2008年3月の市営地下鉄グリーンライン開業に伴い再編され、センター南駅行は廃止され新たに平日の朝方のみ都築ふれあいの丘駅行のバスが新設されましたが、2014年3月28日をもって廃止となり						
302	仲町台駅	新栄高校前、港北工業団地、新北川橋、東山田駅、勝田、大原	センター南駅	港北		C	半数は仲町台駅～東山田駅間の運行
302系統解説	このバスの場合地下鉄開業前は新横浜駅から北川橋南(後に研究所前)線として開通しました。その後、研究所前までのび、また一部は現在のセンター北駅、南駅の前を通り、港北ニュータウン車庫まで行く便も出来ました。もともとは港北営業所の担当路線で、港北ニュータウン車庫に港北営業所のバスが乗り入れていました。地下鉄あざみ野開業後は新横浜駅～港北ニュータウン車庫間の路線を継承するような形で港北ニュータウン車庫からセンター南駅、北駅、北山田、新北川橋、新栄高校前、仲町台駅、都築ふれあいの丘を回る大きな循環線となりました。2007年3月の市営バス再編で仲町台駅～新北川橋間を残して廃止され、担当も港北営業所に戻りました。その後2008年3月の市営地下鉄グリーンライン開業に伴い東山田駅まで路線延長(厳密には路線の復活)が行われました。 2010年11月から88系統と統合し、センター南駅～仲町台駅～勝田～東山田駅～新北川橋～仲町台駅という路線に変更となりましたが、路線効率が悪いことなどから2012年4月に再編され、センター南駅～勝田～東山田駅～新北川橋～仲町台駅という路線に変更になりました。						
303							
303系統解説	今でこそ、あまり面白みのない路線となってしまいましたが、新設当時は新横浜駅から大倉山駅、新羽町、新栄高校前、大原、茅ヶ崎新道を経て北山田に行く長距離路線でした。東急バスとの乗り入れ、一部区間は東急バスのバス停を使う区間がありました。北山田は東急バスの鷺沼駅～すみれが丘線の終点、すみれが丘のすぐ近くです。今でこそ、あざみ野から北山田を経て綱島方面に抜ける立派な道路が出来ていますが、この系統が出来た当初は道路もろくに整備されておらず、雨の時などは地面がぐちゃぐちゃになるような所でした。その後、路線は2つ先の研究所まで延長されました。 市営地下鉄ブルーラインのあざみ野開業時にはセンター南駅～新北川橋間という子系統が新設されましたが新横浜駅発着便は残りました。しかし、新横浜駅発着便は港北区の分区に合わせて廃止となり、センター南駅～新北川橋間のみ残りました。路線はその後朝夕は仲町台駅を経由するなどの変更がありました但不採算が続き、2007年3月の市営バス再編で廃止となりました。						

## 11. 300系統から319系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
304	センター南駅	みずきが丘、折田公園前	江田駅	港北		C	
304系統解説	新設当時は江田駅から北川橋南という路線でした。北川橋南というバス停は第3京浜沿いにあるバス停です。江田駅から当初はみずきが丘、北原経由のみでしたが、やがて池田、中の瀬経由が出来、それぞれが30分に1本の割合で運転されていました。地下鉄開業にあわせて江田駅からセンター南駅(みずきが丘経由)に変更され、現在に至っています。港北ニュータウン地区は地下鉄のあざみ野開業により、地下鉄の駅へのアクセスはよくなりましたが、JRや東急の駅には行きにくくなったところが多くなっています。						
305	市が尾駅	川和高校入口、見花山、川和中学校前、石橋	中山駅北口	緑	東急(一部)	C	市が尾駅～石橋間は頻度B
	市が尾駅	川和高校入口、見花山、川和中学校前	石橋	緑	東急(一部)	B	深夜バス運行
305系統解説	この系統は地下鉄の駅とは基本的に関係のないルートを走っているため、ルート自体は開業時とさほど変わっていません。運行開始当時は緑営業所の所管で、その後港北ニュータウン営業所の設置に伴い移管されました。市が尾駅から泉田向、高山、そこで右折して夕焼け橋、川和富士公園のところを左折し、川和中学校、石橋を抜けて貝の坂、中山駅北口に至る路線が基本ルートです。運行開始直後は先行投資的な意味合いが強く、運行本数も大変少なく特に石橋～中山駅北口間は出入便のみの運行でした。その後、周辺の発展に伴い運転本数も飛躍的に増加しました。しかし、現在でもメインは市が尾駅から石橋間です。港北ニュータウン営業所担当時は港北ニュータウン車庫発着便があり、特に市が尾駅発瑞雲寺前経由の港北ニュータウン車庫行は奇妙な路線で通常の路線と同じく石橋、貝の坂まで行き、その先川和町方面に直進し、瑞雲寺前で右折、再度川和富士公園入口、夕焼け橋、高山、川和高校入口を経て港北ニュータウン車庫に行く路線でした。2007年3月に港北ニュータウン営業所廃止を前提としたダイヤ改正で緑営業所へ移管され、港北ニュータウン車庫関係の子系統が廃止され、市が尾駅～中山駅北口間のシンプルな運行となりました。また、川和富士公園入口～瑞雲寺前～貝の坂間を走る305系統は廃止となりました。						
306	市が尾駅	泉田向、川和高校入口、見花山、中の瀬	センター南駅	緑	東急(一部)	RB	朝、夕～夜間のみ運行
	市が尾駅	泉田向、川和高校入口、見花山、都筑ふれあいの丘駅、中の瀬	センター南駅	緑	東急(一部)	DC	日中のみ運行
306系統解説	地下鉄開業前は東急バスとの乗り入れで市が尾駅～あざみ野駅を結ぶ路線でした。東急バスは虹ヶ丘営業所が担当したので、一時期は港北ニュータウン地区や市が尾駅周辺で川崎ナンバーの東急バスを見ることが出来ました(現在は43系統移管の市43系統を虹ヶ丘営業所で担当しているので市が尾駅近辺では再び見られます)。地下鉄のあざみ野開業と同時に乗り入れは解消され、センター南駅止まりとなりました。また、それまでは301系統の扱いであった荏田南行きや荏田南行きの深夜バス(現在は石橋行に変更)、及び市が尾駅から港北ニュータウン車庫への出入り線なども306系統の管轄となりました(実際は市が尾駅発の出入り線は系統番号を出しませんでした)。現在ではセンター南駅から港北ニュータウン車庫への出入り便も306系統の扱いとなっていました。2007年3月の港北ニュータウン営業所廃止を前提としたダイヤ改正で緑営業所へ移管され、港北ニュータウン車庫関連の子系統は廃止となりました。2008年3月の市営地下鉄グリーンライン開業に伴い日中に限り都筑ふれあいの丘駅を経由するようになりました。また、同時に減便され日中は30分おき						
307							
307系統解説	ももとは市が尾駅～道中坂下という路線で、東急バスとの乗り入れ路線でした。地下鉄あざみ野開業に伴い、センター南駅～道中坂下間の運行に変更されました。平日と土曜日に6往復運行されていたのですが、2000年3月一杯で廃止となりました。						

## 11. 300系統から319系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
308	センター南駅	北部病院、二の丸、星ヶ谷、天満宮、長福寺	仲町台駅	緑		RC	朝、夕～夜間のみ運行 中型車運行
	センター南駅	北部病院、都筑ふれあいの丘駅、二の丸、星ヶ谷、天満宮、長福寺	仲町台駅	緑		DC	日中のみ運行 中型車運行
308系統解説	<p>もともとは新横浜駅からあざみ野駅という路線でした。地下鉄の延伸開業区間とかなりの区間併走するため地下鉄あざみ野開業と同時に廃止となりました。そしてその後、センター南駅と仲町台駅を結ぶ路線として復活しました。当初センター南駅を出て、都筑ふれあいの丘を経由し、向原バス停前で右折、星ヶ谷でさらに左折して独自区間に入っていく路線でした。独自区間の星ヶ谷～長福寺前間は道幅が狭く、この路線は小型専用車による運行となっています。2003年6月に路線の変更が行われ、センター南駅～星ヶ谷間は北部病院、大丸、二の丸、原庭経由となりました。担当営業所は港北ニュータウン営業所でしたが、2006年1月30日から港北営業所に変更となりました。さらに2015年4月1日から緑営業所に変更になりました。</p> <p>2008年3月の市営地下鉄グリーンライン開業に伴い、日中のみ都筑ふれあいの丘駅を経由するようになりました。</p>						
309							
309系統解説	<p>地下鉄あざみ野開業前までは市が尾駅から都筑ふれあいの丘、港北インター経由の新横浜駅行として走っていました。しかし、地下鉄開業にあわせて廃止となりました。これにより、港北インター～新横浜駅間から港北ニュータウン営業所のバスは見られなくなってしまいました。なお、市が尾駅～新横浜駅間のバスは東急バス市03系統があるのでこの2駅を乗り換えなしで移動することは可能です。</p>						
310	センター南駅	中の瀬、都筑ふれあいの丘駅、川和町駅、石橋、梅田橋	仲町台駅	緑		DC	日中のみ運行
310系統解説	<p>こちらは地下鉄あざみ野開業と同時に出来た路線です。当初はセンター南駅からどの便も川和中学校経由で運行されていましたが、その後仲町台駅行きのみ瑞雲寺前へ出て貝の坂経由となりました。瑞雲寺前～石橋間の地下鉄駅へのアクセス確保のためでしょうか・・・(実際には73、80系統がありますが)。仲町台駅線は瑞雲寺前から新開橋までは95系統と同ルートを走り、新開橋で左折して仲町台駅に向かいます。2007年3月のららぽーと横浜開業に際し、緑営業所へ移管の上石橋発着便の多くがららぽーと横浜まで延長となりました。同時に124系統も延長となり、センター南駅～川和中学校前～石橋～ららぽーと横浜間は笹山団地発着便が124系統、ららぽーと横浜及び石橋発着が310系統という奇妙な関係になりました(14系統、104系統と同じような関係)。</p> <p>2008年3月の市営地下鉄グリーンライン開業に伴い日中のバスは都筑ふれあいの丘駅を経由することになりました。その後2008年7月末の変更でセンター南駅～石橋、ららぽーと横浜間の便が124系統に統合され、310系統はセンター南駅～川和町駅～石橋～梅田橋～仲町台駅間のみとなりました。</p>						
311							
311系統解説	<p>現在の路線は2代目です。初代は市営地下鉄があざみ野まで開業した際センター南駅～あざみ野駅というルートで短い期間運行されていました。現在の路線は2008年3月に市営地下鉄グリーンラインが開業した際、新設された「川和町駅」への足として「川和町駅」と「石橋」間を結ぶ路線として設定されました。全線乗っても5分程度という非常に短い路線で、あまり利用者がなかったようです。</p> <p>2010年4月末に路線の再編が行われ、終日1時間に1本程度の運行になると同時に、運行区間が延伸されました。新しいルートは川和町駅から石橋までは現行通りで、その先ららぽーと横浜脇のららぽーと横浜西、鴨池大橋を経由して緑車庫前までです。</p> <p>路線の再編が行われましたが、乗客数が増えなかったからか、2013年3月15日の運行をもって廃止となりました。</p>						

## 11. 300系統から319系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
312							
312系統 解説							
313							
313系統 解説							
314							
314系統 解説							
315							
315系統 解説							
316							
316系統 解説							
317							
317系統 解説							
318							
318系統 解説							
319							
319系統 解説							